

# 世界史



自分で取り組む場があることで、  
生徒は意欲的に学習に向かう

東京都立多摩高校 石川幸佑こうすけ

「授業が分かる 学びたくなる」をスローガンに、授業改善を図っている東京都立多摩高校。同校は2024年度、東京都教育委員会から研究校に指定されたことを機に、生徒が自分のペースで学びを進める自由進度学習を取り入れた。「世界史探究」の授業では、生徒が自分で考え、最後まで集中して問題に取り組む姿が見られている。

## 授業の概要

生徒が自力で問題に取り組み、  
次時の最初に教師が解説

多様な希望進路の生徒が集う東京都立多摩高校は2024年度、東京都教育委員会「デジタルを活用したこれらの学び研究校」(\*)の指定を受け、生徒が自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業づくりを研究している(詳細はP.15コラム参照)。同研究を推進するICT委員会の中心メンバーの1人である石川幸佑先生は、今年度の1学期から、担当する3年生の「世界史探究」で自由進度学習を取り入れている。

使用する教材は、石川先生が教科書の副教材などを基に作成したワークシートだ(図1)。A3判の同シート1枚が1コマ分で、教科書の1節分の内容から、重要事項に関する穴埋め式の問題の約15問と、それらの答えである知識を活用して考察する記述式問題「問いのステップ」の2問を出題している。

同シートを使った1コマの授業の展開は次の通りだ(図2)。まず石川先生が、生徒が前時に取り組んだ「問いのステップ」の解説を行う。その際スクリーンには、教科書の該当部分を投影し、重要語句に線を引いたり、生徒

に問いかけて答えを引き出したりしながら解説する。

次に、生徒が各自で本時のワークシートに取り組む。教科書や資料集を読んだり、インターネットで検索したりと、答えを導き出すためのツールを自分で選択し、自分のペースで学習を進める。その間、石川先生は教室内を回り、生徒の質問に答えたり、生徒の取り組み状況を見取って声かけをしたりする。

最後に、生徒はアンケート作成ツールに答えを入力して送信する。穴埋め式の問題は自動採点で正誤を確認し、間違えた問題は再度取り組む。「問いのステップ」は次時の石川先生の解説を聞いて振り返る。

「問いのステップ」の解説は、時間



ICT委員会  
石川幸佑  
いしかわ・こうすけ  
同校に赴任して5年目。地理歴史・公民科(世界史)。3学年担任。

### 学校概要

設立 1923 (大正12)年  
形態 全日制/普通科/共学  
生徒数 1学年約140人  
2023年度卒業生進路実績 4年制大は、亜細亜大、桜美林大、杏林大、駿河台大、帝京科学大、帝京大、東京経済大、東洋大、武蔵野大、明星大などに延べ31人が合格。短大・専門学校進学60人、就職38人。

を空けて行うことで、自分が分からなかった部分を整理した上で聞くことができるため、より深い理解につながると考えています」

\* 同事業は、「予測困難な時代において、よい変化を起こそうと、自分で課題を設定して振り返り、責任をもって行動する力を身につけさせるため、教師が指導観を転換し、授業をデザインする必要がある。子どもが自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業づくりについて研究し、その成果を都内全公立学校での展開に向けて普及する」ことを目的としている。

図2 1コマの授業の進め方

1. 前時の「問いのステップ」の解説 (15分間)

生徒が前時に取り組んだ「問いのステップ」の2問について、石川先生がスライドで重要箇所を示し、生徒から答えを引き出しながら解説。

2. 本時のワークシートに各自で取り組む (15分間)

生徒は各自、教科書や資料集、インターネットなどを活用しながら、本時のワークシートの穴埋め式の問題と「問いのステップ」に取り組む。

3. 答え合わせと、答えの送信 (15分間)

生徒は、穴埋め式の問題の答えをアンケート作成ツールに入力して送信し、自動採点で正誤を確認。間違えた問題は、教科書を読んだり、クラスメートに質問したりして、再度取り組む。また、「問いのステップ」も答えを入力して送信。ワークシートは生徒が各自で保管し、次時の石川先生による解説の時に再び使用する。

※学校資料と取材を基に編集部で作成。

図1 1コマ分のワークシート (抜粋)

1コマでA3判のワークシート1枚を使用。教科書の1節分の内容から、穴埋め式の問題を約15問と、それらの答えである知識を活用して考察する記述式問題「問いのステップ」2問を出題している。

第3編第2章第1節 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播

西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播 教科書90.91ページ

1. イスラーム世界の動向

《9世紀後半以降》…1. **アッバース朝** ……カリフの権威衰退

→カリフによるイスラーム世界の統一が徐々に失われる

…2. **サーマーン朝** ……(中央アジア)の自立など

・チュニジアの3. **ファティマ朝** ……(シーア派)がカリフを自称

⇒イベリア半島の4. **後ウマイヤ朝** ……もカリフを自称

…5. **アウイ朝** ……(シーア派)がバグダードに入城

**問いのステップ**

問① 政治的統一性が失われた後も、イスラームの連携が維持されたのはなぜだろうか。

ヒント：教科書90ページ「イスラーム世界の動向」の最後の段落から読みとる

カリフによるイスラーム世界の政治的統一性は失われていたものの、イスラームを軸とする一帯性(一帯性)とした経済、文化の交流を通じて、イスラーム世界の連携は維持された。

問② ムスリム商人は、どうやってイスラーム教を広めたのだろうか。また、どのような地域にイスラーム教を広めたのだろうか。ヒント：教科書92ページ「ムスリム商人の活動」から読み取る

以下の言葉を使う ネットワーク サハラ スワヒリ語 神秘主義

考察の指針となるよう、使用する語句を指定

陸海のネットワークを通じて活躍したムスリム商人のほかに使われた言葉は、ムスリムの隊商によって金と岩塩を交換するサハラ縦断交易がなされていた。

※学校資料を抜粋して掲載。

生徒の自己調整を促す工夫

ICTで解答を自動採点。間違えた問題は再度取り組む

石川先生は、生徒が学習内容の全体を見通せるよう、ワークシートは1枚を1コマ分とした。そして1コマ45分間のうち、教師による前時の「問いのステップ」の解説を15分間、本時のワークシートの取り組みを15分間、答えの入力と振り返りを15分間としている。

「問いのステップ」は現在は2問だが、1学期は3問としていた。しかし、3問目にたどり着けない生徒が少なからずいたこと、授業冒頭の教師による解説に時間がかかり、生徒がワークシートに取り組む時間が少なくなってしまうことから、2学期は2問に減らした。それに伴い、一連の取り組みが早く終わった生徒には、教科書に載っている用語の中で分からなかったものについて調べてまとめる課題を出している。

穴埋め式の問題はアンケート作成ツールの機能を活用して自動採点する仕組みにし、生徒が自分で振り返りができるようにしている。

「生徒は、間違えた問題をそのままにせず、教科書を読み直したり、クラ



写真 穴埋め式の問題は、ICTを活用して自動採点ができるようにした。生徒が自分で振り返りができることに加え、教師の採点業務が軽減されるのもメリットだ。

スマートフォンに質問したりしながら再度取り組みます(写真)。完答するまで頑張つて取り組む生徒もいます」

また、何を使ってワークシートに取り組むかは生徒の自由だが、15分間は周りに相談せずに自力で解くこととし、答えを入力する時間になったら周りに相談してもよいルールにした。

「まずは自分でじっくり教科書を読むなどして、答えを導き出してほしいという思いがありました。自分で考えるからこそ、『分からないから知りたい』といった思いが生まれますし、自分が理解している点、分からない点が明確になってこそ、学び合いが成立すると考えています」

## 生徒が自分で進めるからこそ、大切なのは教師の声かけ

生徒が自分で学習を進めている間、石川先生は教室内を回って生徒の様子を丁寧に見取り、必要に応じて声かけを行う。

「自由進度学習を取り入れてから、個別指導が格段にしやすくなりました。本校の生徒は、理解できない部分があると、すぐに手が止まってしまふ傾向があるため、そうした生徒には、『一緒に読んでみようか』『どちらか一方でもやってみようか』と、少しでも手が動くような声かけをしています。一方、学習を進められている生徒には、『もうそこまでできたんだ。早いね』などと褒めるようにしています」

生徒からの質問に対する答え方も変化しました。例えば、「この答えで合っているか」などと聞かれた場合は、合っているか、間違っているかだけを答え、「分からない」と質問された場合は、どこが分からないのかを尋ねた上で、答えを導き出すヒントとなる教科書の該当ページを示している。

「私が答えを言うことはせず、生徒が自分で答えを導き出せるようなヒントを出しています。生徒が自分の頭で考えることを何よりも大切にしています」

## 自立して学ぶ生徒の姿を見て、連続コマの自由進度学習に挑戦

これまで石川先生は、生徒が学習内容に対して関心を持てるよう、画像や動画を豊富に取り入れた自作のスライドを見せながら授業を進めていた。しかし、集中力が続かない生徒は少なくなかった。生徒の学習意欲を高められる方法を思索していたところ、自由進度学習のことを知った。自分の授業スタイルを大きく変えることに戸惑いはあったが、生徒の思考が止まらない授業をしたいという思いから、自由進度学習を取り入れることに挑戦した。

「生徒に学びを任せせることに不安はありましたが、いざ始めてみると、どの生徒も自分で考え、手を動かしてワークシートに取り組む姿に手応えを感じました。それまで集中力が途切れやすかった生徒が、『問いのステップ』の答えを解答欄からはみ出すほど書いた時は非常に驚きました。自分で学びを進められる場があれば、生徒は自立して学ぶのだと実感しました」

1学期を通して自由進度学習を行ったことで、生徒もその学び方にすっか

図3 学習プランシート（抜粋）

課題の説明：3つの課題を通して「国」について考えてみよう

※2回の授業を通して行う課題

- どの課題にどの順番で取り組むかはあなた次第(最低2つの課題に取り組むこと)
- それぞれの課題に知識・技能、思考・判断・表現、主体性の評価を割り振る
- ひとり取り組んでも、グループで取り組んでもよい。
- インターネットを活用して調べてもよい。

1日目(7月 日 時間目)			
取り組む予定の課題(Oをつけて回答)	課題A	課題B	課題C
授業を終えての感想・反省			

・次回の授業に向けての意気込み

※学校資料を抜粋して掲載。

り慣れた様子だ。今後の課題は、歴史的な見方・考え方を働かせる問題を授業にどのように組み込んでいくかだ。「問いのステップ」の解説の中で理解してほしい点は解説しているものの、現状では穴埋め式の問題が中心であることから、歴史的な見方・考え方を十分育てているとは言い難いからだ。

また、数コマをかけて取り組む自由進度学習や学習評価の見直しにも挑戦したいと、石川先生は語る。

「1学期末に、2コマを使って3つの課題に取り組む自由進度学習を行いました。学習計画や振り返りを書き込

む『学習プランシート』(図3)を用意したところ、生徒は取り組む課題を自分で決めて計画的に学習を進めていたことから、数コマにわたっても自己調整ができると分かりました。2学期末までに、その形式を改良した自由進度学習を行い、そこで取り組んだ問題を期末考査で出すことで、指導と評価の一体化を図りたいと考えています」

同校では他教科・科目でも自由進度学習を取り入れている。互見授業などを通じてそれぞれの実践から学び合い、ブラッシュアップしていく。

### ●生徒の声

自分で教科書などを読みながら問題を解き、記述もするので、必要な情報を読み取る力や書く力がついてきたと感じています。先生の解説も、ただ聞くだけの時よりも、自分で考えてから聞く今のスタイルの方が内容が理解しやすくなりました。

穴埋め式の問題は、自動採点を直して完答しています。記述式問題の難易度は高いですが、先生にヒントをもらいながらも、「分かった!」と思つて答えが書けた時は達成感があります。先生の解説は、自分が考えたことを振り返って見直す場になっています。